

不協和音もある、 共鳴、

レゾナンス

新潟市美術館と
新津美術館の
両館所蔵品による

2025.
1.18(土) - 3.9(日)

絵画から彫刻、写真、
プロダクトデザイン、
そして美術館建築まで

【開館時間】 午前10時～午後5時 (観覧券販売は午後4時30分まで)
【休館日】 月曜日 (ただし2月24日、3月3日は開館)
【観覧料】 一般500円 (400円) / 大学・高校生300円 (240円)
中学生以下無料

- () 内は有料20名以上の団体料金
- 障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料 (手帳をご提示ください)
- 2度目はオトク! [リピーター割引] (本展半券の提示で、本展2度目の観覧が団体料金)
- 2館見るとオトク! [あっちも割] (新潟市美術館の企画展観覧券を持参の方は団体料金)*
- 新潟県立植物園および新潟市新津鉄道資料館の入館券を持参の方は団体料金*
- 上記*印の割引は、1枚につき1回限り1年間有効

【主催・会場】 新潟市新津美術館

〒956-0846新潟県新潟市秋葉区蒲ヶ沢109番地1
(花と遺跡のふるさと公園内、新潟県立植物園となり)
TEL.0250-25-1300 www.city.niigata.lg.jp/nam/



新潟市新津美術館

交通案内

JR

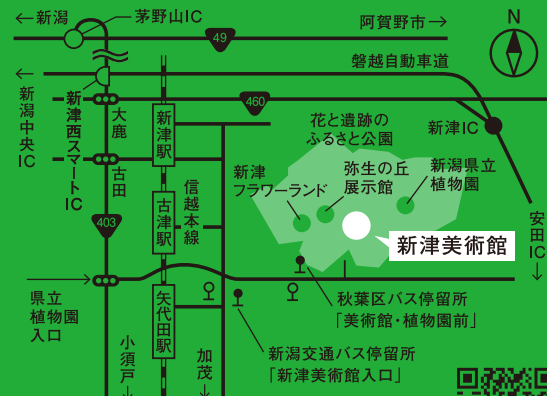
- JR古津駅から徒歩約25分。JR矢代田駅から徒歩約35分。
- JR新津駅からタクシー約15分。JR矢代田駅からタクシー約5分。

お車

- 新潟方面から、国道49号線を国道403号線加茂・新津方面へ (新潟駅から約20km、約45分)。
- 磐越自動車道、新津ICから約20分。新津西スマートICから約15分 (新津西スマートICは会津若松方面の出入りはできません)。
※無料駐車場有 (250台)。新潟県立植物園無料駐車場も利用可能。

バス

- JR新津駅東口バス停から、秋葉区バス「新津駅西口行」に乗車約25分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。もしくは新潟交通バス (平日のみ) 「矢代田經由白根・潟東行」に乗車約15分、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分。
- JR矢代田駅前バス停から、秋葉区バス「新津駅東口行」に乗車約10分、「美術館・植物園前」で下車、徒歩すぐ。もしくは新潟交通バス (平日のみ) 「新津駅行」に乗車約5分、「新津美術館入口」で下車、徒歩約5分。



詳しい
交通案内はこちら▶



パフォーマンス To Strike The Iron

音の出る彫刻《音のかけらN4》を作家本人が生演奏します。

【出演】金沢健一氏(出品作家、彫刻家)

【日時】2月16日(日)
午前11時～、午後2時～(各回30分程度)

【会場】新津美術館展示室1
事前申込不要、無料(ただし要当日観覧券)
※託児あり(要予約) 午前10時～12時、午後1時～4時

こどもタイム 金沢さんバージョン

音楽とともに展覧会を楽しんでいた当館の名物事業「こどもタイム」。今回は、出品作家、金沢健一氏が2000年に当館で実施したパフォーマンスの音源を展示室に流します。

【日時】1月19日(日)、2月2日(日)・6日(木)・20日(木)、
3月2日(日)・6日(木) 各日 午前10時～午後1時

絵本のよみきかせ

「こどもタイム」に合わせて、「音」の表現が楽しい絵本を読みます。大人にもおすすめです。

【読み手】美術館ボランティア

【日時】3月2日(日) 午前11時～(30分程度)

【会場】新津美術館1階(無料エリア)
事前申込不要、無料

担当学芸員による見どころ解説

【講師】新津美術館学芸員

【日時】2月1日(土) 午後2時～(30分程度)

【会場】新津美術館展示室
事前申込不要、無料(ただし要当日観覧券)
※託児あり(要予約) 午後1時～4時

美術講座

2月24日(月・振休) 「作品としての新津美術館」

【講師】上池仁子(新津美術館学芸員)

1997年「従来の美術品展示の枠を超える」ことを目指して開館した新津美術館。開館当初の特色ある事業や、建築の見どころなどを紹介します。

3月1日(土) 「悲しき彫刻ーパブリックアートとはなにか」

【講師】荒井直美(新潟市美術館学芸員)

本展出品のマケットは、1994年開催の「野外彫刻大賞展」で受賞し、新潟市内に実際に設置されました。彼らの“その後”を追いながらパブリックアートの歴史をひもときます。

いずれも、

【時間】午後1時30分～3時

【会場】新津美術館レクチャールーム

【定員】先着50名
事前申込不要、無料
※託児あり(要予約) 午後1時～4時

託児サービス

鑑賞や関連事業参加に合わせて、専門スタッフがお子様をお預かりします。利用は無料です。

【対象】生後6か月～未就学児のお子様(定員3名、先着順)

【申込】利用の3日前までに、電話(新津美術館 0250-25-1300)でお申込みください。

【日程】●関連事業欄の※印で記載した日時
●1月23日(木)・25日(土)、2月8日(土)・13日(木)・
22日(土)・27日(木)、3月8日(土)
各日 午前10時～12時

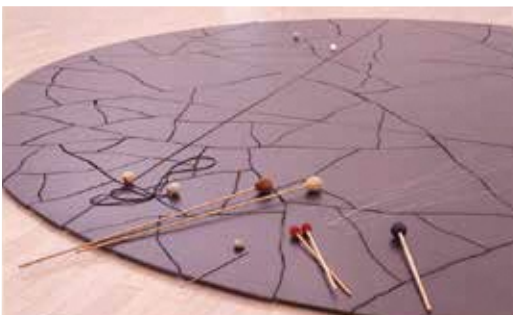


① 美術館と裏山



野外彫刻とブナ林が四季を伝える「山の庭」を有する新潟市美術館と、背後に古津八幡山遺跡を臨む新津美術館。野外彫刻のマケット(小型の試作バージョン)や山を表わした作品を通じて、両館の屋外空間と展示室を(想像の中で)行き来していただきます。

A: 最上壽之(ツイツイフラフロンブニダッコ)1994年、ステンレススチール、新潟市美術館 [撮影:宮原一夫] ※本展では小型マケットを展示します。
B: 原田哲男(スカイマウンテン)2000年、大理石、新津美術館



⑤ 金沢健一《音のかけらN4》は、鉄製プレート叩いて眼と耳と手で味わう作品です。楽譜にみえる(かもしれない)抽象絵画とともに展示します。



G: 金沢健一《音のかけらN4》(部分)2000年、鉄、ゴム、新津美術館 [撮影: StudioF (t) 渡部佳則]

H: 二村裕子(1996 Location 1-7)1996年、シルクスクリーン、新津美術館

④ 作品としての美術館

新潟市美術館[1985年開館、前川男設計]と新津美術館[1997年開館、横山正+アルセッド建築研究所設計]。両館の個性が顕著に提示された開館当初に注目して、建築と事業の両面から紹介します。

表面上: 新潟市美術館 窓上部の装飾と外壁 [撮影: 今井智己]
表面下: 新津美術館 折版屋根と冷暖房設備の煙突 [撮影: 関谷正昭]



② 草間彌生と花々

両館の草間作品と、秋山庄太郎、東松照明の写真によって、時に可憐に、時に生々しい艶やかさを放つ花や植物の表現を紹介します。

C: 秋山庄太郎《鬱金香・チューリップ 10》1987～90年、カラープリント、新津美術館 ©秋山庄太郎写真芸術館
D: 草間彌生《花と蝶》1995年、エッチング、新潟市美術館 画像転載不可 ©YAYOI KUSAMA



③ 美術館に夜の灯り

ネオン瞬く大竹伸朗《日本景／夏の海》や、倉俣史朗デザインのバーカウンターが、夜のムード漂う空間を創り出します。

E: 大竹伸朗《日本景／夏の海》1997年、ネオン管、ステンレス、ファウンド・オブジェクト、新津美術館 [撮影: 中野正貴]
F: 倉俣史朗《「バー ルッキーノ」のカウンター天板》1987年、透明合わせガラス、新津美術館(新津美術館での2008年当時の設置風景) [撮影: 佐藤徹一]



新潟市美術館所蔵品より最大規模の2点、クロード・ヴィアラ《無題》(幅約6m)と野田裕示《WORK-1316》(幅約7m)、フェルトによる富井大裕作品。同じイメージをサイズ・技法を変えて表現した張替正次の絵画を展示して、素材とスケールに対する感覚を揺さぶります。

I: 野田裕示(WORK-1316)2000年、アクリル、キャンバス、新潟市美術館
J: 張替正次(クサビ)1973年、油彩、キャンバス、新津美術館

⑥ 素材とスケール

新潟市美術館と新津美術館が
6つのテーマで共鳴する
(あるいは不協和音を奏でる)
展覧会を開催します